平成 25 年度国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備ボランティア養成研修

平成 25 年 5 月 18 日（土）～19 日（日）

1．　事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し,施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2．　事業の概要

（1） 期日

平成25年5月18日（土）～19日（日）

（2） 募集人員

30名

高校生，大学生（専門学校生を含む）及び社会人

（3） 参加者

44名 （大学生41名，高校生3名）

ー青少年教育の理解ー

（4） 研修内容

講義1「青少年教育の理解」

内容：青少年の社会性の遅れなど，今日の社会における青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師：瀬戸内市教育委員会

教育長　藤原　一成　氏

講義2「青少年教育施設の現状と運営」

内容：青少年施設の教育機能や役割，運営について理解する。

講師：国立吉備青少年自然の家職員

実習1「野外炊事」

内容：野外炊事を通して，仲間作りや指導の方法を学ぶ。

講師：国立吉備青少年自然の家職員

実践報告「吉備ボランティアとして」

内容：継続ボランティア自身が感じている吉備ボランティアの魅力や体験談を伝え，新規ボランティアとの交流を深め，参加意欲を高める。

報告：国立吉備青少年自然の家施設ボランティア

講義3「ボランティア活動の意義」

内容：ボランティア活動の意義について理解するとともに，ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師：認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

副代表理事　池田　満之　氏

実習2「救命救急法」「安全管理」

内容：応急手当など救命救急に必要な知識・技術を学ぶ。

講師：日本赤十字社　岡山県支部指導員

講師：国立吉備青少年自然の家職員

講義4「ボランティア活動の理解」

内容：青少年教育施設におけるボランティア活動の内容の理解や登録制度について理解する。

講師：国立吉備青少年自然の家職員

（5）　企画・運営のポイント

参加者募集については，岡山県を中心に広報活動を行った。広報手段の一つとして，大学や高校へ直接訪問し，ボランティア説明会を実施することで呼びかけをした。その際，広報用のスライドやDVDを新しく作成し，プレゼンテーションの内容やボランティア年間活動計画を示したプリントを配付することで活動内容をイメージしたり，施設のことが具体的に分かったりすることができるようにし，応募者の参加予定が立て易くなるように工夫した。

研修内容はボランティア養成のカリキュラムをもとに，法人ボランティアとして求められる知識や技術を取得する研修とし，ボランティアの資質向上がより一層図れるようにした。

今回は，吉備ボランティア養成研修に日を合わせてボランティア総会を開催した。そこでは，継続ボランティアによる実践報告会や新規ボランティアとの交流会を計画し，新規ボランティアと継続ボランティアとが繋がり，共にボランティア活動ができる環境づくりに努めた。

ーボランティア活動の意義ー

3．　活動の内容等

（1）日程

	6 15	45	7 15	30	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18 20	35	19	20	21	22
18日							受付	開講式	オリエンテーション	講義1（青少年教育の理解）	昼食	講義2（青少年教育施設の現状と運営）	実習1（野外炊事）					実践報告（ボランティア総会）		入浴	就寝
19日		洗面	起床	清掃	朝のつどい	朝食	荷物移動	講義3（ボランティア活動の意義）		実習2（救命救急法）	昼食	実習2（安全管理）	講義4（ボランティア活動の理解）		閉講式						

（2）活動の状況

最初に受講者間の人間関係をほぐし，より良好な雰囲気のもと講義が進行できるように，オリエンテーションに仲間づくりのためのアイスブレイクを取り入れた。青少年教育の理解では，瀬戸内市教育委員会教育長の藤原一成先生を招聘した。現在の青少年の現状や教育の課題について，参加者との対話形式で進められ，参加者は体験活動の必要性を理解した。青少年教育施設の現状と運営では，厳しい現状と体験活動を提供する施設の役割の重要性について理解した。野外炊事の実習では,子どもたちの支援に当たる際のポイントや安全面について，どのようなことが大切かを考えながら実施した。ボランティア活動の意義では，認定 NPO 法人「持続可能な開発のため

の教育の 10 年」推進会議の池田満之先生を招聘し，ボランティア活動の色々な事例を基に考え，ボランティア活動における心構えや留意点について理解を深めた。救命救急法や安全管理では，一次救命措置やAEDの使用方法，危険予知能力を実習を通して学んだ。ボランティア活動の理解では，今年度の事業内容をスライドで説明することで活動についての理解を深め，事業参加への意識が高まった。

４．　成果・課題

（1）成果

ボランティア活動の広報範囲を拡大した結果,より多くの受講者を募ることができた。特に今年度は，高校生の初めての応募もあり，定数を上回る参加となった。外部講師には,本施設のボランティア活動の内容にもふれながら専門的な講話を頂くことで，参加者からはボランティア活動参加への意欲や理解が感じられた。ボランティア総会では，実践報告会や交流会を設定することで，継続ボランティアには活動発表の場面ができ，更に成長の機会となった。また，今後の活動のイメージや意欲が沸き，新規ボランティアにとって良いものとなった。

ーボランティア総会ー

（2）参加者の声

- ○ 事業全体に対する満足度　　・・・100%
- ○ 事業のプログラムに対する満足度・・・97.7%
- ○ 事業の運営に関する満足度　　・・・97.7%
- ○ 職員の指導，助言に関する満足度・・・100%

参加者アンケート　自由記述より

- ・自分たちで実際に活動しながら，子どもに指導するときの注意点などを学ぶことができて，とても有意義な時間を過ごせたように思います。スタッフとしての心構えも少しですが意識することができるようになり，勉強になりました。ありがとうございました。
- ・青少年教育の理解の講義は，私自身の今までのボランティア活動の一つ一つに直結した振り返りとなり，大変有意義でした。
- ・ボランティアをする上で，役に立つプログラムであり，ボランティアとして必要な力を学ぶことができて良かった。
- ・教師を目指す上で，とてもよい経験ができた。

（3）今後の課題等

- ・大学や高校への直接広報によるスライドの中で，保険料の説明や継続ボランティアの感想等があれば，より身近に感じられるので取り入れていきたい。
- ・主担当は常に参加者の相談に乗れるように参加者と行動を共にしたほうがよい。細々としたことや講師対応等は副担当に任せるようにしていきたい。

担当：企画指導専門職　村上　聖一